

ネットワーク管理と情報管理

情報処理センター所長 中川 寿夫

奈良大学統合情報処理システム・ネットワーク（NUICE）の構築により、教育・研究部門と同時に事務部門等の管理・サービス部門をも含めた学内ネットワークが一応の完成をみると共に、インターネット接続も完了してから早くも一年を経過しようとしている。多くの方々に歓迎されその利用率も急速に上昇しつつあるなど、いわゆる情報社会の光の部分を楽しむだけの環境がそれなりに整えられつつあることに対し、この部門に関係する一員として喜びにたえない。

しかし、この一年間の運用の経験、そして今後更にその規模を拡大していくであろう学内および学園内ネットワークシステムの予想される将来像を考えると、今我々は一つの大きな課題に直面させられていることを感じざるを得ない。ネットワーク管理、そして情報の管理をどのようにして行っていくのか、その基本概念と体制をどう構築していくかという問題である。

前号でも述べたとおり、情報社会には光の部分と共に必ずその陰の部分が存在する。一方のみを見て他方に目をつぶることは、結果的に情報社会を危機に陥れることになる。ハードウェアとしてのネットワークシステムに支えられた情報の共有化によって成立する情報社会において、それらの適切かつ万全の管理は決定的に重要である。特に大学という機関は、一方で研究部門に代表される情報の公開性が原則とされる部門と共に、他方で人事部門に代表される情報の非公開性（保護）が原則とされる部門とを一つの組織内に抱え込む機関である事を考える時、そこにネットワークシステムを構築する際には、その基本構成についての概念をまず入念に作成しておく事が肝要である。本学（本学園）においてはこの出発点での検討が十全であったとはいえない。

次に、この基本構成概念においては、ネットワーク管理、各部の情報管理を、誰が責任主体となって実施していくのか、という検討が欠かせない。そしてそのための人材が必要とされる。職員構成や職務内容もネットワーク化される必要がある。この視点を欠いた職員・職務構成は情報社会に十分に対応できるものとはいえない。

これらに対する明快なる基本プランが構想提示されてこそ、はじめて奈良大学は真の意味で情報社会に対応できる姿をもちうるし、また我々としても、情報社会に即応できる学生を育て上げていくための教育に対して、積極的に取り組んでいけることになるのではなかろうか。新図書館システムや学生掲示板システム等の構築やネットワーク上での運用開始に向けて、これらの点についての真剣なる検討と基本構想の作成を切に望みたい。